

4. 総会等報告

(1) 2018年度地域安全学会総会 報告

1). 2018年度事業報告

①理事会の開催

2018年度は理事会を下記のとおり開催した。

- 第1回 2018年 5月25日(金) 北海道奥尻町(奥尻町海洋研修センター)
- 第2回 2018年 7月7日(土) 東京(同志社大学東京オフィス)
- 第3回 2018年 9月2日(日) 東京(東京工業大学キャンパスイノベーションセンター)
- 第4回 2018年 11月2日(金) 静岡(静岡地震防災センター)
- 第5回 2019年 1月12日(土) 東京(同志社大学東京オフィス)
- 第6回 2019年 3月23日(土) 東京(同志社大学東京オフィス)

②総会・春季研究発表会・公開シンポジウムの開催

総会・春季研究発表会・公開シンポジウムを下記のとおり開催した。

日時：2018年5月25日(金)～26日(土)

i. 5月25日(金)

- (a) 一般論文発表：55編
- (b) 2018年度地域安全学会総会
- (c) 表彰式(年間優秀論文賞、論文奨励賞)
- (d) 会場：奥尻町海洋研修センター(〒043-1401 北海道奥尻郡奥尻町奥尻314)

ii. 5月26日(土)

(a) 公開シンポジウム

「奥尻島のこれまでとこれから」

会場：奥尻町海洋研修センター多目的ホール(上掲)

司会・進行：定池祐季(東北大学災害科学国際研究所・助教)

○基調講演「北海道・奥尻島の地震津波について」

谷岡勇市郎

(北海道大学大学院理学研究院 附属地震火山研究観測センター・教授)

○パネルディスカッション「奥尻島のこれまでとこれから」

パネリスト：稲垣森太(奥尻町教育委員会・学芸員)

安藤晃希・林東吾(奥尻高等学校・2年生)

コメンテーター：中林一樹(首都大学東京・名誉教授)

コーディネーター：定池祐季(東北大学災害科学国際研究所・助教)

(b) 現地見学会「1993年北海道南西沖地震津波災害被災地のいま」

③東日本大震災連続ワークショップ2018 in 南三陸

下記の企画を実施した。

日時：2018年7月29日(日)～30日(月)

場所：南三陸町役場本庁舎(宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田101)

- ①東日本大震災ワークショップ一般論文：21件
- ②基調講演「南三陸町の復興状況」(佐藤仁南三陸町長)
- ③南三陸町および女川町の復興ツアー

④秋季研究発表会の開催

秋季研究発表会を下記のとおり開催した。

日時：2018年11月2日（金）～3日（土）

場所：静岡県地震防災センター

①査読論文発表：33件、一般論文ポスター発表：55件

②文部科学省リスクコミュニケーションのモデル形成事業特別セッション（上記の査読論文33編のうち、4編）

⑤地域安全学会論文集・梗概集の刊行

i. 春季研究発表会において「地域安全学会梗概集No. 42」を刊行した。

ii. 秋季研究発表会において「地域安全学会論文集No. 32（電子ジャーナル論文）、No. 33（研究発表会論文）」を刊行した。

iii. 秋季研究発表会において「地域安全学会梗概集No. 43」を刊行した。

iv. 地域安全学会論文集No. 34（電子ジャーナル論文）をホームページ上に公開した。

⑥一般研究論文等のホームページ公開

地域安全学会として学術的な知をより広く社会に還元することを目的として、これまでに発行してきた地域安全学会梗概集と東日本大震災特別論文集のHP上での公開を開始した。

⑦地域安全学会論文賞・論文奨励賞・年間優秀論文賞の選出

i. 査読論文（電子ジャーナル）No. 32(2018. 3)、および査読論文（研究発表会）No. 33(2018. 11)に掲載された合計45編の論文を対象として、2018年地域安全学会論文賞の審査を行った。審査会における審議の結果、該当者なしとなった。

ii. 査読論文（研究発表会）No. 33(2018. 11)に掲載された合計33編の論文を対象として、2018年論文奨励賞の審査を行い、以下の3編の論文の筆頭著者を選出した。

(a) 「都市システムの自然災害に対する受容力の構造の解明と制御の可能性」
塩崎由人（東京大学）

(b) 「災害対応コンピテンシー・プロフィール検査紙による自治体職員向け災害対策専門研修事業のインパクト評価」

辻岡綾（ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター）

iii. 上記45編の査読論文を対象に年間優秀論文賞の審査を行い、以下の1編の論文の筆頭著者を選出した。

・「南海トラフ巨大地震時における災害廃棄物処理に係る災害対応リソース」（地域安全学会論文集No. 33）

平山修久（名古屋大学）

⑧地域安全学会「技術賞」の選出

12回目を迎えた地域安全学会技術賞の募集に対し、2件の応募登録があり、審査委員8人による厳正な審査の結果、以下の2件を選出した。

・「全国統一防災模試」（地域安全学会論文集No. 33）

佐藤翔輔（東北大学災害科学国際研究所）、橋田和明（HASHI. inc）、山下徹（ヤフー株式会社）、桃井菜穂（株式会社博報堂ケトル）、野尻美樹（株式会社博報堂アイ・スタジオ）

・「市町村向け災害情報共有システム（IDRIS）の開発」（地域安全学会論文集No. 33）

栗林大輔（国立研究開発法人土木研究所）、大原美保（国立研究開発法人土木研究所）、岩崎貴志（三井共同建設コンサルタント株式会社）、徳永良雄（国立研究開発法人土木研究所）

⑨地域安全学会「優秀発表賞」の選出

第42回（2018年度）地域安全学会研究発表会（春季）において、55編の口頭発表が行われ、

また、第43回（2018年度）地域安全学会研究発表会（秋季）においては、55編のポスター発表が行われた。審査の結果、以下の発表を行った6名を授賞対象者として選出した。

【春季】

- (a) 「熊本地震の罹災証明データを用いた深層学習による建物被害推定の可能性」
河辺賢（MS&ADインターリスク総研（株））
- (b) 「東北3県における東日本大震災被災者の生活復興に対する生活再建7要素の影響に関する基礎的研究：震災から5年が経過する中での東日本大震災生活復興調査の結果から」
川見文紀（同志社大学大学院社会学研究科）
- (c) 「災害の「語り部」をめぐる変化-北海道奥尻町を事例として」
定池祐季（東北大学災害科学国際研究所）

【秋季】

- (a) 「「Team Sendai（チームセンダイ）」による被災自治体職員の災害対応の継承に関する研究」
柳谷理紗（仙台市役所まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室）
- (b) 「社会基盤の災害時連携対応を考える啓発ツールの効果～道路啓開をテーマとして～」
上園智美（名古屋大学減災連携研究センター）
- (c) 「「全国統一防災模試」にみる国民の災害対応知識の傾向分析」
橋田和明（株式会社博報堂ケトル）

⑩ニュースレター発行とホームページ管理

2018年度はニュースレターNo. 103-No. 106の計4号を発行し、学会ホームページ上に掲載した。

⑪会員メーリングリストによる情報提供

会員への迅速な情報発信を目指して、メールによる情報配信を行った。個人情報保護を考慮しつつ、効率的な会員サービスと会員管理を進めた。

⑫企画研究小委員会研究活動

企画研究小委員会において以下の2テーマについて研究活動を実施した。

- ①社会に役立つ防災情報システム研究小委員会（主査：牧紀男（京都大学））
- ②減災型土地利用マネジメント研究小委員会（主査：馬場美智子（兵庫県立大学））

⑬東日本大震災関連活動

- i. 宮城県本吉郡南三陸町において「東日本大震災連続ワークショップ2018 in 南三陸」を開催した。
- ii. 東日本大震災特別委員会ワークショップにおいて「地域安全学会東日本大震災特別論文集No. 7」を刊行した。

⑭国際学術交流

・2019年度に開催予定の第4回世界防災会議（ICUDR）に向けて、準備を進めた。

⑮シンポジウム等の共催・参加

- 以下の催事に、地域安全学会として共催した。
- ・安全工学シンポジウム2018（日本学術会議）
 - ・第15回日本地震工学シンポジウム（日本地震工学会）
 - ・第23回「震災対策技術展」横浜

⑯防災学術連携体が主催・連携するシンポジウムに、下記の会員が参加し報告を行った。

- i. 日本学術会議公開シンポジウム・第6回防災学術連携シンポジウム
(防災推進国民大会 2018)
「あなたが知りたい防災科学の最前線-首都直下に備える」(2018年10月19日)
村尾修(東北大学): 首都直下地震におけるリスクコミュニケーション
- ii. 日本学術会議主催学術フォーラム・第7回防災学術連携シンポジウム
「平成30年夏に複合的に連続発生した自然災害と学会調査報告」(2018年3月12日)
三浦弘之(広島大学): 空間情報データによる広島県土石流災害の評価

⑱ 文部科学省リスクコミュニケーションのモデル形成事業の実施

- i. 2016年度から、文部科学省の補助金によるリスクコミュニケーションのモデル形成事業として「行政・住民・専門家の協働による災害リスク等の低減を目的とした双方向リスクコミュニケーションのモデル形成事業」を実施し、14の大学・研究機関の研究者により、行政・住民・専門家といった多様なステークホルダーが参画したマルチハザード(防犯も含む)対応の地区防災計画づくり等支援をワークショップ形式で進めるほか、行政の委員会等への参加や行政を対象とした講演、行政と連携した住民・事業者等への講演を通じて、地域社会の災害リスク等の低減に資するリスクコミュニケーションを実践した。
- ii. 地域安全学 夏の学校2018 -基礎から学ぶ防災・減災- (2018年8月6~7日: 人と防災未来センター)
- iii. 2018年度地域安全学会秋季研究発表会特別セッション (2018年11月2日: 静岡県地震防災センター)
- iv. 第15回日本地震工学シンポジウムオーガナイズドセッション (2018年12月7日: 仙台国際センター)
- v. リスコミ事業報告会 (2019年3月16日: HOTEL椿山荘 こもれび)

⑲ 会員数および年会費納入 (2019年3月末)

	会員数	2018年度 会費納入状況
賛助会員	2	2
正会員	541	504
学生会員	72	51

2) . 2018年度決算

決算に関して、宮野監事、重川監事による監査を受けた。指摘された修正を取り入れた以下の決算報告に対して承認をいただいた。

【貸借対照表】

(単位：円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
現金	124,598	未払金	2,366,601
普通預金	4,810,435	預り金	16,536
(うち、国際交流事業用資金)	297,976	前受金	44,000
【口座別内訳】 ゆうちょ銀行	52,241	仮受金	0
振替預金	74,819	未払法人税等	76,000
春季研究発表	465,233		
秋季研究発表	418,719		
りそな査読論文	1,295,053		
りそなワークショップ	275,069		
りそなリスコム事業	2,229,301		
前払費用	0		
商品	2,512,964		
未収会費	416,000		
未収入金	0		
ソフトウェア	0		
		負債合計	2,503,137
		その他一般正味財産	5,360,860
		正味財産合計	5,360,860
資産合計	7,863,997	負債・正味財産合計	7,863,997

【損益計算書】

(単位：円)

科 目	金 額
【Ⅰ 収入】	
1 会費収入	4,232,000
2 寄付金収入	0
3 受取助成金	10,000,000
4 事業収入	
ア 梗概集登載料	1,295,000
イ 梗概集販売料	274,213
ウ 論文集登載料	1,400,000
エ 論文集査読料	680,000
オ 論文集販売料	188,717
カ DVD販売料	15,000
5 雑収入	
ア 懇親会費	1,230,000
イ 視察費	394,900
ウ その他	147,000
6 受取利息	49
収入合計	19,856,879
【Ⅱ 支出】	
1 人件費	1,189,400
2 通信・広報費	254,923
3 印刷・編集費	1,639,698
(印刷編集費棚卸対応分)	-214,412
4 会議費	904,333
5 旅費交通費	7,092,893
6 交際費	1,022,964
7 委託費	2,782,537
8 消耗品費	1,175,182
9 事務用品費	1,620
10 減価償却費	0
11 支払手数料	119,016
12 謝金	135,000
13 補助金	30,000
14 事務局費	2,328,000
15 租税公課	10,962
16 運営費	1,322,517
17 雑費等	854,892
支出合計	20,649,525
税引前当期利益	-792,646
法人税等	76,000
当期利益	-868,646
前期繰越利益金額	6,229,506
次期繰越利益金額	5,360,860

2018年度地域安全学会収支計算書

(2018年4月1日～2019年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	①予算	②決算	比較 ①-②	備 考
1.会費収入	4,121,000	3,996,000	125,000	正会員:7,000円×519名 学生会員:2,000円×49名 賛助会員:100,000円×2社 過年度の未収分のうち当期入金分:65,000 (予算 正:541 学生:67 賛助:2)
2.寄付金収入	0	0	0	
3.受取助成金等	10,000,000	10,000,000	0	リスクコミュニケーション特別企画研究 (30年度分)
4.春季研究発表会				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	500,000	500,000	0	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×61名
イ 梗概集販売料	90,000	54,835	35,165	1冊:4,000円×11部 CD1枚1,000円×9枚、送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	481,000	500,500	▲ 19,500	懇親会参加費:6,500円×77名
イ 視察費	315,000	330,900	▲ 15,900	見学会参加費:5,000円×66名、津波館入場料
ウ その他	0	0	0	
小 計	1,386,000	1,386,235	▲ 235	
5.秋季研究発表会				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	560,000	550,000	10,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×55名
イ 梗概集販売料	160,000	181,018	▲ 21,018	1冊:4,000円×45部、CD@150×2枚、送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	450,000	417,500	32,500	懇親会参加費:7,500円×48名、2,500円×23名
小 計	1,170,000	1,148,518	21,482	
6.東日本大震災連続ワークショップ				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	190,000	245,000	▲ 55,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×21名
イ 梗概集販売料	50,000	38,360	11,640	1冊:2,000円×19部、送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	75,000	312,000	▲ 237,000	懇親会費+宿泊費:23名
イ 視察費	100,000	64,000	36,000	見学会参加費 (バス代含む):17名
小 計	415,000	659,360	▲ 244,360	
7.学術				
1)事業収益				
ウ 論文集登載料	1,500,000	1,400,000	100,000	登載料 (2万円+5,000円/2ページ) ×60名
エ 論文集査読料	700,000	680,000	20,000	査読料:1編10,000円×68名
オ 論文集販売料	200,000	188,717	11,283	1冊:4,000円×46部
カ DVD販売料	40,000	15,000	25,000	1枚:2万円 (会員価格) ×2枚
2)雑収入				
ア その他	150,000	125,000	25,000	オンライン投稿査読システム利用料 5,000円×25編 日本災害情報学会 日本災害復興学会より
小 計	2,590,000	2,408,717	181,283	
8.受取利息	1,000	49	951	
9.その他		22,000	▲ 22,000	前期計上の会議費の取消分 (小口現金増加)
収入合計	19,683,000	19,620,879	62,121	

支出の部

(単位：円)

科目	①予算	②決算	比較①-②	備 考
1.事務局・総務				
2) 通信費・広報費	150,000	102,430	47,570	切手、送料、電話代等
3) 印刷編集費	10,000	12,960	▲ 2,960	コピー代、封筒印刷代
5) 旅費交通費	300,000	315,794	▲ 15,794	監査の為の交通費、大会等事務局交通費、宿泊費
6) 交際費	5,000	0	5,000	
7) 委託費	324,000	375,840	▲ 51,840	委託費月27,000円 30.4-31.3月分、メルアドリス運用代
8) 消耗品費	20,000	16,405	3,595	消耗品、10万円以下の備品
9) 事務用品費	10,000	1,620	8,380	事務用文具等
11) 支払手数料	75,000	43,632	31,368	銀行振込手数料、役員登記手数料
14) 事務局費	2,328,000	2,328,000	0	委託費月194,000円 H30年4月～H31年3月
15) 租税公課	30,000	10,962	19,038	源泉所得税、登録免許税、収入印紙代等
16) 運営費	30,000	13,933	16,067	メダル作成費
99) 予備費	0	76,000	▲ 76,000	法人税等
小 計	3,282,000	3,297,576	▲ 15,576	
2.広報				
7) 委託費	25,000	23,760	1,240	HP情報更新料・サーバ利用料
11) 支払手数料	1,000	216	784	銀行振込手数料
小 計	26,000	23,976	2,024	
3.総会・理事会				
2) 通信費・広報費	60,000	84,940	▲ 24,940	総会の案内資料印刷・発送代
3) 印刷編集費	70,000	52,488	17,512	案内送付用封筒・ハガキ・案内資料印刷
4) 会議費	200,000	86,075	113,925	理事会 会場費
5) 旅費交通費	520,000	783,740	▲ 263,740	理事会 旅費交通費
11) 支払手数料	5,000	8,208	▲ 3,208	銀行振込手数料
小 計	855,000	1,015,451	▲ 160,451	
4.学術				
1) 人件費（アルバイト給料）	400,000	287,000	113,000	論文データ等アップデート作業代
2) 通信費・広報費	20,000	33,800	▲ 13,800	論文発送料、レターバックライト
3) 印刷編集費	810,000	794,880	15,120	論文集No.32、33 220部印刷料、コピー代
4) 会議費	100,000	99,414	586	学術委員会昼食代、飲食代、会場費
5) 旅費交通費	350,000	628,948	▲ 278,948	学術委員会参加交通費
7) 委託費	830,873	837,774	▲ 6,901	研究発表会論文オンライン査読システム委託費 初期導入費:324,000+利用料:506,873、ドメイン更新
11) 支払手数料	5,000	11,448	▲ 6,448	銀行振込手数料
16) 運営費	0	54,000	▲ 54,000	評価者昼食代
17) 雑費等	0	3,860	▲ 3,860	
小 計	2,515,873	2,751,124	▲ 235,251	
5.国際交流				
11) 支払手数料	10,000	0	10,000	
16) 運営費	100,000	0	100,000	
小 計	110,000	0	110,000	

科目	①予算	②決算	比較①-②	備 考
6.春季研究発表会				
1) 人件費(アルバイト給料)	0	0	0	
2) 通信費・広報費	4,000	6,675	▲ 2,675	
3) 印刷編集費	190,000	183,438	6,562	梗概集No.42CD付80部、CD25部
4) 会議費	0	0	0	
5) 旅費交通費	380,000	722,173	▲ 342,173	現地見学会バス、投資者旅費
6) 交際費	460,000	326,490	133,510	懇親会費用
8) 消耗品費	3,000	0	3,000	賞状用紙他
11) 支払手数料	3,000	3,024	▲ 24	銀行振込手数料
12) 謝金	20,000	15,000	5,000	パネリスト、パフォーマー謝礼
16) 運営費	180,000	253,092	▲ 73,092	現地見学会費用(昼食代含む)
17) 雑費等	0	0	0	
小 計	1,240,000	1,509,892	▲ 269,892	
7.秋季研究発表会				
1) 人件費(アルバイト給料)	40,000	38,700	1,300	
2) 通信費・広報費	5,000	6,642	▲ 1,642	梗概集送料、賞状送付料
3) 印刷編集費	170,000	257,580	▲ 87,580	梗概集No.43 100部
4) 会議費	0	0	0	
5) 旅費交通費	5,000	6,360	▲ 1,360	アルバイト交通費
6) 交際費	380,000	368,442	11,558	懇親会会場代、料理代
8) 消耗品費	3,000	2,564	436	賞状、賞状用筒、備品、飲み物
9) 事務用品費	0	0	0	
11) 支払手数料	1,000	1,296	▲ 296	
12) 謝金	30,000	30,000	0	パフォーマー謝金
16) 運営費	400,000	433,480	▲ 33,480	昼食、飲み物代、パネル設置代
17) 雑費等	0	0	0	
小 計	1,034,000	1,145,064	▲ 111,064	
8.東日本大震災連続ワークショップ				
2) 通信費・広報費	5,000	1,544	3,456	論文集郵送料
3) 印刷編集費	120,000	126,468	▲ 6,468	特別論文集No.7(CD付) 60部
5) 旅費交通費	100,000	138,000	▲ 38,000	現地見学会等バス代
6) 交際費	75,000	328,032	▲ 253,032	懇親会
11) 支払手数料	1,000	432	568	銀行振込手数料
12) 謝金	30,000	30,000	0	講師謝礼
16) 運営費	100,000	10,000	90,000	見学会、昼食代等
17) 雑費等	0	0	0	
小 計	431,000	634,476	▲ 203,476	
9.リスクコミュニケーション特別企画研究小委員会				
16) 運営費	10,000,000	10,118,591	▲ 118,591	会場料、振込手数料
小 計	10,000,000	10,118,591	▲ 118,591	
10.その他事業				
5) 旅費交通費	200,000	129,911	70,089	研究小委員会旅費交通費、防災学術連携総会参加
7) 委託費	0	0	0	
11) 支払手数料	2,000	1,728	272	銀行振込手数料
13) 補助等	30,000	30,000	0	安全工学シンポジウム共催分担金、防災学術連携体会費
16) 運営費	100,000	70,068	29,932	安全・安心若手研究会の運営費:100,000円
17) 雑費等	0	0	0	
小 計	332,000	231,707	100,293	
支出合計	19,825,873	20,727,857	▲ 901,984	

収入-支出	-1,106,978
-------	------------

なお、科目間の流用を認めます。

2019年5月10日
上記の通り収支決算を報告いたします。

地域安全学会

監事 重川 希志依

監事 宮野 道雄



3). 会員の除名について

地域安全学会定款第10条により、過去2年度分（2017（H29）年度、2018（H30）年度）の会費を滞納している正会員（8名）及び学生会員（12名）の除名について審議を行う。

(退 会)

第 10 条 正会員、学生会員、名誉会員又は賛助会員は、次に掲げるいずれかの事由によって退会する。

1. 各会員本人の申し出。ただし、退会の申し出は、当法人所定の退会届により1か月前にするものとするが、やむを得ない事由があるときは、いつでも退会することができる。
2. 死亡又は解散
3. 総会員の同意
4. 除名

②正会員、学生会員、名誉会員又は賛助会員の除名は、次に掲げるいずれかの事由により、総会の決議によってすることができる。

1. 会費を2年以上滞納したとき
2. 当法人の名誉を傷つけ又は当法人の目的に反する行為があったとき
3. その他正当な事由があるとき

除名の対象となる正会員及び学生会員を下記に示す。

■ 正会員（8名）

会員番号	氏名
1117	小林 博昭
1237	長谷見 雄二
1286	三浦 房紀
1383	鈴木 進吾
1482	岡本 晃
1484	久富 博之
1777	陸川 貴之
1810	鳥庭 康代

■ 学生会員（12名）

会員番号	氏名
1743	河野 文昭
1748	文 聖 仁
1760	段 牧
1781	吉田 武
1802	徳光 勇人
1811	鄭 明宰
1812	柳 信栄
1821	酒井 佑介
1828	高橋 政宏
1836	松本 武士
1850	水上 昌信
1860	小池 光右

4). 2019年度役員の改選結果

①任期满了役員

i. 理事

生田 英輔	大阪市立大学大学院生活科学研究科
池田 浩敬	常葉大学大学院環境防災研究科
市古 太郎	首都大学東京大学院都市環境科学研究科
糸井川 栄一	筑波大学システム情報系
稲垣 景子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院
梅本 通孝	筑波大学システム情報系
大西 一嘉	神戸大学大学院工学研究科
大原 美保	土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター
加藤 孝明	東京大学生産技術研究所
柄谷 友香	名城大学都市情報学部
清野 純史	京都大学大学院工学研究科
越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所
小山 真紀	岐阜大学流域圏科学研究センター
指田 朝久	東京海上日動リスクコンサルティング
庄司 学	筑波大学システム情報系
立木 茂雄	同志社大学社会学部
田中 聡	常葉大学大学院環境防災研究科
西川 智	名古屋大学減災連携研究センター
能島 暢呂	岐阜大学工学部
秦 康範	山梨大学工学部
藤本 一雄	千葉科学大学危機管理学部
牧 紀男	京都大学防災研究所
松岡 昌志	東京工業大学環境・社会理工学院
村尾 修	東北大学 災害科学国際研究所
目黒 公郎	東京大学 生産技術研究所
森 伸一郎	愛媛大学大学院理工学研究科
八木 宏晃	静岡県交通基盤部
矢代 晴実	防衛大学校システム工学群

ii. 監事

重川 希志依	常葉大学大学院環境防災研究科
宮野 道雄	大阪市立大学大学運営本部

以上、理事28名、監事2名

②選出役員

次期役員候補者として届出のあった以下の理事、監事を規程により無投票で選出した。

i. 理事

生田 英輔	大阪市立大学大学院生活科学研究科
池田 浩敬	常葉大学大学院環境防災研究科
市古 太郎	首都大学東京大学院都市環境科学研究科
糸井川 栄一	筑波大学システム情報系
稲垣 景子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院
梅本 通孝	筑波大学システム情報系
大西 一嘉	神戸大学大学院工学研究科
大原 美保	土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター

加藤 孝明	東京大学生産技術研究所
柄谷 友香	名城大学都市情報学部
越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所
越山 健治	関西大学社会安全学部
小山 真紀	岐阜大学流域圏科学研究センター
指田 朝久	東京海上日動リスクコンサルティング
庄司 学	筑波大学システム情報系
立木 茂雄	同志社大学社会学部
田中 聡	常葉大学大学院環境防災研究科
西川 智	名古屋大学減災連携研究センター
能島 暢呂	岐阜大学工学部
秦 康範	山梨大学工学部
藤本 一雄	千葉科学大学危機管理学部
牧 紀男	京都大学防災研究所
松岡 昌志	東京工業大学環境・社会理工学院
村尾 修	東北大学 災害科学国際研究所
目黒 公郎	東京大学 生産技術研究所
森 伸一郎	愛媛大学大学院理工学研究科
八木 宏晃	静岡県交通基盤部

ii. 監事

重川 希志依	常葉大学大学院環境防災研究科
宮野 道雄	大阪市立大学大学運営本部

以上、理事27名、監事2名

(代表理事等)

第 22 条 当法人に会長 1 名、副会長 2 名を置き、理事の中から理事会において理事の過半数をもって選定する。

②会長及び副会長は、法人法上の代表理事とする。

③会長は、当法人を代表し会務を総理する。

④副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、会長があらかじめ理事会の承認を得て定められた順位に従いその職務を代行し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(理事の職務及び権限)

第 23 条 理事は、理事会を構成し、法令及び定款で定めるところにより、職務を執行する。

②代表理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

(監事の職務及び権限)

第 24 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

②監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(理事及び監事の任期)

第 25 条 理事及び監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

②前項の規定にかかわらず、会長の任期は、選任後 1 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

③任期満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された者の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とする。

④増員により選任された理事の任期は、他の在任理事の任期の残存期間と同一とする。

⑤理事に欠員が生じ理事会の運営に大きな支障があると会長が判断した場合には、会長は理事会に諮り、次の総会までの間理事の職務を代行する者を指名することができる。会長に指名された者は最も近い総会までの間、理事の職務を代行し、総会で承認を受ければ役員に就任する。ただし、総会で承認を得られなければ職務から離任するものとする。

(理事及び監事の解任)

第 26 条 理事及び監事は、総会の議決によって解任することができる。

5). 2019年度地域安全学会委員会等の構成

(◎委員長、○副委員長、___理事、理事は所属を省略)

【会長】

目黒公郎

【副会長】

村尾修：学術（研究・国際交流）担当

田中聡：総務（会員・広報）担当

【総会・春季研究発表会実行委員会】

◎梅本通孝、○市古太郎、越村俊一、秦康範、小山真紀、阪本真由美（兵庫県立大学）

【秋季研究発表会実行委員会】

◎池田浩敬、○八木宏晃、湯瀬裕昭（静岡県立大学）

【学術委員会】

◎秦康範（電子ジャーナル）、○越山健治（電子ジャーナル）、糸井川栄一、木村玲欧（兵庫県立大学）、越村俊一、小林秀行（明治大学）、佐伯琢磨（京都大学）、佐藤慶一（専修大学）、佐藤翔輔（東北大学）、澤田雅浩（兵庫県立大学）、永松伸吾（関西大学）、紅谷昇平（兵庫県立大学）、丸山喜久（千葉大学）、三浦弘之（広島大学）、村上正浩（工学院大学）

【研究運営委員会】

◎大原美保、○梅本通孝

【広報委員会】

○藤本一雄、○秦康範、庄司学、松岡昌志（HP担当）、能島暢呂、小山真紀

【表彰委員会】

◎池田浩敬、稲垣景子、柄谷友香

【選挙管理委員会】

◎指田朝久、○藤本一雄

【国際交流委員会】

◎西川智、森伸一郎、立木茂雄、牧紀男、稲垣景子

【東日本大震災特別委員会】

◎村尾修、○生田英輔、稲垣景子、大西一嘉、佐藤翔輔（東北大学）、杉安和也（東北大学）、寅屋敷哲也（人と防災未来センター）、松川杏寧（人と防災未来センター）

【安全工学シンポジウム担当】

◎稲垣景子

【防災学協会連合組織担当】

◎田中聡、○西川智

6). 2019年度事業計画

①理事会の開催

2019年度は理事会を下記のとおり開催する。

- 第1回 2019年5月24日（金） 長野県木曾郡木曾町（木曾町文化交流センター）
- 第2回 2019年7月6日（土） 東京（東工大キャンパスイノベーションセンター）
- 第3回 2019年9月1日（日） 東京（東工大キャンパスイノベーションセンター）
- 第4回 2019年11月1日（金） 静岡（静岡県立大学）
- 第5回 2020年1月11日（土） 東京（同志社大学東京オフィス）
- 第6回 2020年3月21日（土） 東京（同志社大学東京オフィス）

②総会・春季研究発表会・公開シンポジウムの開催

総会・春季研究発表会・公開シンポジウムを下記のとおり開催する。

日時：2019年5月24日（金）～25日（土）

場所：長野県木曾郡木曾町（木曾町文化交流センター）

(長野県木曾郡木曾町福島 5129)

- ③東日本大震災連続ワークショップ2019 in 南相馬 の開催
日時：2019年8月2日（金）～3日（土）
場所：南相馬市市民情報交流センター（福島県南相馬市原町区旭町2丁目7-1）
・市の関係者による復興状況の講演、研究発表会
・現地見学会
- ④秋季研究発表会の開催
秋季研究発表会を下記のとおり開催する
日時：2019年11月1日（金）～2日（土）
場所：静岡県立大学
- ⑤地域安全学会論文集・梗概集の刊行
i. 春季研究発表会において「地域安全学会梗概集 No. 44」、秋季研究発表会において「地域安全学会梗概集 No. 45」を刊行し、優秀発表賞を選出する。
ii. 地域安全学会論文集の論文募集は年2回とし、今年度は地域安全学会論文集 No. 35、同 No. 36（電子ジャーナル論文）の論文を募集する。
iii. 秋季研究発表会において「地域安全学会論文集 No. 34、No. 35」を刊行し、地域安全学会論文奨励賞を選出する。
iv. 地域安全学会論文集 No. 36（電子ジャーナル論文）をホームページ上で公開する。
v. 地域安全学会論文集（No. 34、No. 35）を対象に地域安全学会論文賞および年間優秀論文賞を選出する。
- ⑥広報活動の強化と会員管理
サービスの向上を目指して、会員へのメールによる各種情報配信、ホームページによる情報提供、印刷物による情報発信について、各々の機能分化した情報提供を実施する。
- ⑦地域安全学会技術賞の選出
表彰委員会において第13回地域安全学会技術賞の選考を行う。
- ⑧企画研究小委員会活動
企画研究小委員会において以下の3テーマについて研究活動を実施する。
i. 社会に役立つ防災情報システム研究小委員会（主査：牧紀男（京都大学））
ii. 減災型土地利用マネジメント研究小委員会（主査：馬場美智子（兵庫県立大学））
iii. 復興国際比較研究小委員会（主査：大西一嘉（神戸大学工学研究科））
- ⑨国際学術交流
・第4回世界防災会議（ICUDR）を2019年9月16日（月）～18日（水）にかけて台北にて開催する。
・韓国災難情報学会と今後の連携について協議する。
- ⑩役員選挙
定款の規定に則り、今年度は2020年度新役員の選挙を実施しない。
- ⑪東日本大震災に関する支援・研究活動の推進
東日本大震災特別委員会による被災地支援・研究活動の実施、東日本大震災学協会連絡協議会への参画を行う。

⑫防災学協会連合組織への参加

「防災学協会連携体」が主催、連携するシンポジウム等に参加し報告を行う。

⑬地域安全学 夏の学校2019－基礎から学ぶ防災・減災－の実施

大学生・大学院生を主な対象として、セミナーを開催する。

日時：2019年8月5日（月）

場所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス

7). 2019年度予算

2019年度地域安全学会予算

(2019年4月1日～2020年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	2019年予算	2018年決算	備 考
1.会費収入	4,071,000	3,996,000	正会員:7,000円×541名 学生会員:2,000円×72名 賛助会員100,000円×2社
2.寄付金収入	0		
3.受取助成金等	0	10,000,000	リスコミュニケーション事業2018年度で終了
4.春季研究発表会			
1)事業収益			
ア 梗概集掲載料	550,000	500,000	掲載料(ページ数対応5,000円/2ページ)×55名
イ 梗概集販売料	90,000	54,835	1冊:4,000円×20部 CD1枚1,000円×10枚
2)雑収入			
ア 懇親会費	0	500,500	外部に委託のため
イ 視察費	240,000	330,900	見学会参加費:4,000円×60名
ウ その他	0	0	
小 計	880,000	1,386,235	
5.秋季研究発表会			
1)事業収益			
ア 梗概集掲載料	550,000	550,000	掲載料(ページ数対応5,000円/2ページ)×55名
イ 梗概集販売料	180,000	181,018	1冊:4,000円×45部
2)雑収入			
ア 懇親会費	435,000	417,500	懇親会参加費:7,500円×50名、2,500円×24名
イ 視察費	0	0	
ウ その他	0	0	
小 計	1,165,000	1,148,518	
6.東日本大震災連続ワークショップ			
1)事業収益			
ア 梗概集掲載料	240,000	245,000	掲載料(ページ数対応5,000円/2ページ)×24名
イ 梗概集販売料	40,000	38,360	1冊:2,000円×20部
2)雑収入			
ア 懇親会費	75,000	312,000	懇親会参加費:3,000円×25名(2018年度は宿泊費も含む)
イ 視察費	80,000	64,000	見学会参加費:4,000円×20名
ウ その他	0	0	
小 計	435,000	659,360	
7.学術			
1)事業収益			
ウ 論文集掲載料	1,500,000	1,400,000	掲載料(2万円+5,000円/2ページ)×60名
エ 論文集査読料	700,000	680,000	査読料:1編10,000円×70名
オ 論文集販売料	200,000	188,717	1冊:4,000円×50部
カ DVD販売料	20,000	15,000	1枚:2万円(会員価格)×1枚
2)雑収入			
ア その他	150,000	125,000	オンライン投稿査読システム利用料 5,000円×30編 日本災害情報学会 日本災害復興学会より
小 計	2,570,000	2,408,717	
8.受取利息	50	49	
9.その他	0	22,000	
収入合計	9,121,050	19,620,879	

支出の部

(単位：円)

科目	①予算	②決算	備 考
1.事務局・総務			
2) 通信費・広報費	100,000	102,430	切手、送料、電話代等
3) 印刷編集費	15,000	12,960	コピー代、封筒印刷代
5) 旅費交通費	300,000	315,794	監査の為の交通費、大会等事務局交通費、宿泊費
6) 交際費	5,000	0	
7) 委託費	324,000	375,840	会計事務所 月27,000円 H31年4月～R2年3月
8) 消耗品費	18,000	16,405	消耗品、10万円以下の備品
9) 事務用品費	5,000	1,620	事務用文具等
11) 支払手数料	50,000	43,632	銀行振込手数料、役員登記手数料
12) 謝金	0	0	
14) 事務局費	2,028,000	2,328,000	委託費月194,000円×6 H31年4月～R1年9月 月144,000円×6 R1年10月～R2年3月
15) 租税公課	20,000	10,962	源泉所得税、利子税、登録免許税、収入印紙代等
16) 運営費	20,000	13,933	メダル作成費
17) 雑費等	0	0	
99) 予備費	76,000	76,000	法人税等
小 計	2,961,000	3,297,576	
2.広報			
7) 委託費	150,000	23,760	HP情報更新料・サーバ利用料
11) 支払手数料	1,000	216	銀行振込手数料
小 計	151,000	23,976	
3.総会・理事会			
1) 人件費			
ア アルバイト給料	0	0	
2) 通信費・広報費	80,000	84,940	総会の案内資料印刷・発送代
3) 印刷編集費	60,000	52,488	案内送付用封筒・ハガキ・案内資料印刷
4) 会議費	100,000	86,075	理事会 会場費
5) 旅費交通費	750,000	783,740	理事会 旅費交通費
11) 支払手数料	5,000	8,208	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	
小 計	995,000	1,015,451	
4.学術			
1) 人件費（アルバイト給料）			
ア アルバイト給料	200,000	287,000	論文データ等アップデート作業代
2) 通信費・広報費	30,000	33,800	論文発送料
3) 印刷編集費	750,000	794,880	論文集No.34、35 印刷料、コピー代
4) 会議費	100,000	99,414	学術委員会昼食代、飲食代
5) 旅費交通費	600,000	628,948	学術委員会参加交通費
7) 委託費	506,873	837,774	研究発表会論文オンライン査読システム委託費 年間利用料：506,873
11) 支払手数料	10,000	11,448	銀行振込手数料
16) 運営費	50,000	54,000	査読者昼食代
17) 雑費等		3,860	
小 計	2,246,873	2,751,124	
5.国際交流			
11) 支払手数料	10,000	0	
13) 補助等	0	0	
16) 運営費	100,000	0	
小 計	110,000	0	

科目	①予算	②決算	備 考
6.春季研究発表会			
1) 人件費(アルバイト給料)			
アルバイト給料	0	0	
2) 通信費・広報費	5,000	6,675	
3) 印刷編集費	190,000	183,438	梗概集No.44
4) 会議費	0	0	
5) 旅費交通費	400,000	722,173	現地見学会バス、投資者旅費
6) 交際費	0	326,490	外部に委託のため
8) 消耗品費	3,000	0	賞状用紙他
11) 支払手数料	3,000	3,024	銀行振込手数料
12) 謝金	100,000	15,000	パネリスト、パフォーマー謝礼
16) 運営費	180,000	253,092	現地見学会費用(昼食代含む)
17) 雑費等	0	0	
小 計	881,000	1,509,892	
7.秋季研究発表会			
1) 人件費(アルバイト給料)			
ア アルバイト給料	40,000	38,700	
2) 通信費・広報費	5,000	6,642	梗概集送料、賞状送付料
3) 印刷編集費	240,000	257,580	梗概集No.45
4) 会議費	0	0	
5) 旅費交通費	5,000	6,360	アルバイト交通費
6) 交際費	380,000	368,442	懇親会会場代、料理代
8) 消耗品費	3,000	2,564	賞状、賞状用筒、備品
9) 事務用品費	0	0	
11) 支払手数料	1,000	1,296	
12) 謝金	30,000	30,000	パフォーマー謝金
16) 運営費	400,000	433,480	昼食、飲み物代、パネル設置代
17) 雑費等	0	0	
小 計	1,104,000	1,145,064	
8.東日本大震災連続ワークショップ			
2) 通信費・広報費	5,000	1,544	
3) 印刷編集費	120,000	126,468	特別論文集No.8(CD付)
5) 旅費交通費	100,000	138,000	現地見学会等バス代
6) 交際費	75,000	328,032	懇親会(2018年度は宿泊費も含む)
11) 支払手数料	1,000	432	銀行振込手数料
12) 謝金	30,000	30,000	講師謝礼
16) 運営費	10,000	10,000	見学会、昼食代等
17) 雑費等	0	0	
小 計	341,000	634,476	
9.リスクコミュニケーション特別企画研究小委員会			
16) 運営費	0	10,118,591	リスクコミュニケーション事業2018年度で終了
小 計	0	10,118,591	
10.その他事業			
5) 旅費交通費	200,000	129,911	研究小委員会(2つ)の旅費交通費
7) 委託費	0	1,728	
11) 支払手数料	1,000	0	銀行振込手数料
13) 補助等	40,000	30,000	安全工学シンポジウム共催分担金、防災学術連携体会費
16) 運営費	100,000	70,068	安全・安心若手研究会の運営費:100,000円
17) 雑費等	0	0	
小 計	341,000	231,707	
支出合計	9,130,873	20,727,857	

収入-支出	-9,823
-------	--------

なお、科目間の流用を認めます。